

整形外科

I プログラムの名称

日野市立病院 整形外科初期臨床研修プログラム

II プログラムの管理・運営と理念

管理と運営は、日野市立病院臨床研修管理委員会が行う。

当科の研修プログラムでは、日常で経験することの多い運動器の疾患や外傷に対するプライマリ・ケアの知識と技能を習得する。研修医には、さまざまな疾患の診療や治療計画について総括的教育を行うほか、整形外科の専門医が、骨折や脱臼の整復やギプスの巻き方などの基本的な手技の指導を行う。また、積極的に手術にも参加してもらい、観血的治療についての知識と手技を学ばせる。

また、週に1回程度「運動器疾患，外傷に関する整形外科的アプローチ」と題して、ある患者に対しての診断から治療選択を学ばせる教育セッションを行う。

実習は、原則として外来および入院患者の診療を基本とするが、救急診療を体験させるために、希望者には、整形外科が当直の際に、一緒に当直または自宅待機をしてもらい、より実践的な研修を行えるようにする。

III プログラムの指導者

1) 統括責任者

依光 悦朗（日本整形外科学会認定専門医）

2) 上級医

塩野 将平（日本整形外科学会認定専門医）

安藤 祐之（日本整形外科学会認定専門医）

廣瀬 裕一郎（日本整形外科学会認定専門医）

IV 一般目標

一般整形外科医として、運動器疾患、外傷、脊椎脊髄病疾患に対して、基本となる考え方、臨床技術を学ぶ。特に、プライマリ・ケアの場面で頻回に遭遇する主訴にどのように対応し、いかに検査・治療を進めるかという基礎的臨床能力（態度・技能・知識）の習得を重視する。

V 行動目標

- (1) 患者・家族と医師との関係を正しく築くことができる。
- (2) チーム医療について説明できる。
- (3) 医療現場において安全管理ができる。
- (4) 患者に的確な問診を行い、情報を収集できる。
- (5) 検査を含めた診療計画を立てることができる。
- (6) 医療事故、院内感染などの問題点を理解し、発生時に正しく対処できる。

VI 経験目標

A 基本的な診察法

- ・ 運動器全般の診察，記載ができる。
- ・ 脊椎の診察，記載ができる。
- ・ 上肢・下肢の診察，記載ができる。
- ・ 神経学的診察，記載ができる。
- ・ 四肢の骨軟部腫瘍の診察，記載ができる。
- ・ 小児運動器の診察，記載できる。
- ・ 救急外傷の診察，記載ができる。

B 以下の検査項目について自分で施行できる。

- ・ 関節穿刺
- ・ 筋力測定

C 以下の検査の選択・指示ができ，結果を解釈することができる。

- ・ 血液生化学検査
- ・ 筋電図検査
- ・ 肺機能検査
- ・ 細菌学的検査
- ・ 髄液検査
- ・ 単純 X 線検査
- ・ CT 検査
- ・ MRI 検査
- ・ 脊髓造影検査
- ・ 椎間板造影検査
- ・ 神経根造影検査

D 以下の基本的治療行為を自らできる。

- ・ 局所麻酔，伝達麻酔
- ・ 関節内注射
- ・ 神経ブロック
- ・ 硬膜外ブロック
- ・ 脊髓神経根ブロック
- ・ 四肢のギプス固定，ギプスシーネ固定，アルフェンスシーネ固定
- ・ 四肢の包帯
- ・ 鋼線牽引
- ・ 介達牽引
- ・ 汚染・挫減創の処置・管理（咬傷の処置を含む）
- ・ 止血処置・管理
- ・ 神経・血管損傷に対する処置・管理
- ・ 骨折・脱臼の整復・管理
- ・ 捻挫の処置・管理
- ・ 切開・排膿の施行
- ・ 熱傷の処置・管理
- ・ 関節血症の処置*
- ・ 区画（コンパートメント）症候群の処置
- ・ 指・肢切断の処置・管理

- ・ 外傷性ショックの処置・管理
- ・ 圧挫症候群の処置・管理
- ・ 脂肪塞栓症候群の処置・管理
- ・ 褥創の予防処置・管理
- ・ 脊髄麻痺の処置・管理
- ・ 自己血貯血に関する処置・管理

E 手術において以下の行為ができる。

- ・ 清潔・不潔操作
- ・ 手洗い, ガウンの着脱, 手袋の着脱
- ・ 基本的な手術手技 (止血, 創の展開, 縫合, 結紮など)
- ・ 基本的な手術器材の操作

F 経験すべき疾患からみた病態の診断ができる。

G 以下の件について専門家にコンサルテーションができる。

- ・ さまざまな疾患の手術適応
- ・ リハビリテーション

VII 研修スケジュール

- (1) 1か月コース：運動器疾患，外傷の基本的な治療方針の立て方について学び，基本的な検査・治療，手技を習得する。
- (2) 2か月コース：プライマリ・ケアを中心とした治療方針の立て方の実習を重ねるとともに，さらに高度な検査・治療手技を習得する。
手術に参画し，整形外科患者の治療の全体を把握できるようにする。
さらに基本的な手術手技を習得し，手術器材の操作法を学ぶ。

週間予定表は，添付資料を参照されたい。

週間予定表

	早朝 8：30～9：00	午前 9：00～12：00	午後 13：00～17：00
月曜日		● 外来 ● 手術	● 手術 ● 専門外来
火曜日	カンファレンス	● 外来 ● 手術	● 手術 ● 専門外来
水曜日		● 外来 ● 手術	● 手術 ● 専門外来
木曜日	病棟総回診	● 外来 ● 手術	● 手術 ● 専門外来 ● カンファレンス
金曜日	カンファレンス	● 外来 ● 手術	● 手術 ● 専門外来

VIII 研修評価

ローテーションした各科で指導医が10項目からなる研修評価を行う。この中にはサマリー提出率も含む。研修手帳の内容を照合し、しかるべき研修が行われたか吟味する。

研修医氏名		診療科名			
1	基本的技術をマスターできたか？	A	B	C	D
2	基本的知識を身につけたか？	A	B	C	D
3	医療従事者との人間関係は良好か？	A	B	C	D
4	患者・家族に正しく対応できたか？	A	B	C	D
5	外来業務が正しく行えたか？	A	B	C	D
6	手術室で、正しく清潔動作が行えたか？	A	B	C	D
7	カルテを正確に記載できたか？	A	B	C	D
8	患者サマリーの記載と提出を行ったか？	A	B	C	D
9	勤務態度、回診・カンファレンスへの参加態度は熱心であったか？	A	B	C	D
10	症例の問題点を正しく認識し、解決のための計画をたてることができたか？	A	B	C	D
総合評価					
研修担当指導医署名					

サマリー提出率はD(0-25%), C(26-50%), B(51-75%), A(76-100%)とする。

総合評価はA=3, B=2, C=1, D=0としてスコア化する。30点満点。

指導医の2人以上による評価が望ましい。